

緑化通信

2017
4月25日
(年7回25日発行)
第458号

発行所 一般社団法人 日本植木協会
〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL: http://www.ueki.or.jp/
E-mail: honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

リレー連載 うえきのちから ~植木が届ける宝物~

みどりが生み出す「道理」の話



建築・まちづくりプロデューサー
関東学院大学客員教授
株式会社チームネット 代表取締役

甲斐徹郎氏

私は、住まいづくりやまちづくりのプロデュースをしています。その私の仕事ではみどりの存在は欠かせないものです。なぜ欠かせないのかというと、みどりには人を幸せに導く「道理」のようなものがあると思うからです。私は常にその「みどりの道理」を活かしてプロジェクトの実現を図っています。

この紙面での機会をいただいて、私の感じているこの「みどりの道理」について紹介させていただこうと思います。

1. 人の行為に大きく影響する「みどりのチカラ」

下の写真1を見て下さい。公園の広場の中で30組くらいの家族が仲睦まじく集まってピクニックをしている光景です。この家族たちは知り合い同士ではなく、たまたまそこで出くわした赤の他人です。赤の他人なのに、仲睦まじくひとつの場所に集まっています。彼らを出会わせる働きをしたものは何なのかを考えてみてください。お分かりになりますか。

どうでしょう。1本のケヤキの木が、彼らを出会わせているということに気付かれましたか。



写真1 見知らぬ者同士を引き合わせたものは?

このピクニックをしているのは、10月のよく晴れた日ですが、まだ夏の気配が残るこの季節の日射はとて強く日向はとて暑いので、みんな日射を避けてこのケヤキの木陰の下に陣取ったわけです。この場合、ピクニックをしている彼らは、「暑いからこっちはいい」という自分たちの明確な意思に基づいて行動し、その結果として左の写真のような光景が生まれたと考えることは正しいでしょうか。

いや、それは違うんだということを明確にした人がいます。ジェームズ・ギブソンという認知心理学という分野の研究をした米国の心理学者です。彼は、「環境の様々な要素が人間や動物に働きかけ、そのフィードバックによって動作や感情を生んでいる」ということを明らかにしました。つまり、写真のピクニックをしている人たちの行為は、「そこが快適そうだから」という自分の意志に基づいているのではなく、無意識のうちにケヤキが創り出している環境に反応して行動しているというのです。ですから、この写真の赤の他人を出会わせたのは、一本のケヤキの木だと言えることができるということです。

このような「みどり」が私たちの行為に及ぼす影響力はいろいろな場面で確認することができます。こうしたみどりの影響力を理解すると、その力を活用して導き出したい人の行為を意図的に生み出すということも可能になります。次にそうしたみどりが生み出す「道理」を活かした事例を紹介したいと思います。

2. 「みどりの道理」の活かし方

写真2、3は、銀座の裏通りで写した写真です。みどりに覆われたお店が見えますがこのお店を観察していると、多くの通行人が「なんの店だろう」とみどりに気を引かれて店の中を覗き込む様子がよく見られます。そして、覗いて初めて「ケーキ屋さん」だということがわかり、特に買うつもりはなかった人が店に足を踏み入れ、お菓子の購入に至ります。これも、みどりが人の無意識に働きかけ、人の行為を導いた一例です。



写真2 銀座の気になるお店



写真3 みどりに引き寄せられ入店してしまう



写真4 浅草のふく割烹ピフォ



写真5 浅草のふく割烹アフター

みどりを活かしてお店を繁盛させる。私はそうした取組みをいろいろとやってきました。その事例として浅草親音の裏手にあるふく割烹店をご紹介します。コースを頼んでお酒を飲めばおひとり様1万円を超えるお店です。そのピフォアフターが写真4と5です。どうでしょうか。浅草まで来てみたら入ってみようという気持ちになりました

プロフィール: 関東学院大学客員教授 東京都大学、都留文科大学、立教セカンドステージ大学非常勤講師

1995年、環境共生型の住まいと街を創造し普及させるコンサルティング会社として、株式会社チームネットを設立。1996年より「エコロジー住宅市民学校」を開校し、一般市民を対象に環境共生手法の普及啓発活動を続け、個人住宅における環境共生の実現にも取り組んでいる。

(公財)東京都公園協会「まちなか緑化事業」では、緑化支援プログラムの構築を支援し、モデル事業を推進している。

代表的な著書「不動産の価値はコミュニティで決まる」(学芸出版社)、「住環境再考」(萌文社/共著)「森をつくる住まいづくり」(世田谷区都市整備公社)「まちに森をつくらせて住む」(農文協)「自分のためのエコロジー」(筑摩書房)他
URL: http://www.teamnet.co.jp

か。みどりが施される前後では、おそらく相当その気持ちに差を感じたのではないのでしょうか。

3.暮らしを快適にする道理

みどりはどうして人の無意識な行為に影響するのでしょうか。最初の公園でのピクニックの様子を振り返ってみると、人は「快」か「不快」かという感覚に反応していることがわかります。二つの店舗の例でも、みどりがもたらす「快」への反応が根底にあって、私たちの興味を引き付けているのだと思います。

こうした「みどりのチカラ」を暮らしの場面で活かす方法を最後に紹介したいと思います。

先の公園の例のようにみどりで覆われたところは夏場とても涼しく快適だということは皆さんおわかりだと思います。この場合の涼しさに影響する熱的な要因は太陽からの「直射日光」と周囲の「表面温度」です。「直射日光」が遮られかつ「表面温度」の低い木の葉に覆われた場所だから、この場所ではとても涼しく感じるのです。

夏に家の中が暑くなってしまうのは、その部屋の外が直射日光にさらされて高温になった地面やデッキから放射される輻射熱が室内に影響するからです(図6)。逆に、家の外にみどりで覆われた快適な庭をつくれれば、クーラーに頼らずに室内を涼しくすることができます(図7)。

そうした外の快適さを整えることで室内を快適にする工夫をすると暮らしの場は、室内だけでなく外へと拡張し、暮らしは豊かになります。そして、人のよく集まりやすい住まいになります。緑にはこうした人の行為に影響し、生活の本質を大きく変えるチカラがあります。



図6 室内が暑くなるのは外が暑いから



図7 外が快適になれば室内は涼しくなる

4. 不動産価値を高めるみどりの活かし方

こうしたみどりのチカラを様々な場面で応用すれば、街中に緑は増えだします。隣りあったみどりや、向かいあった緑が相互に連携するとみどりが及ぼすチカラは増幅することになり、周辺の体感的な心地よさは増幅し、人を引き付ける空間が生まれます。それがどんどん連鎖することで街並みが生まれます(写真8)。こうした増幅作用はそのエリア全体の環境を高め、不動産価値を高めることになります。

まちづくりとはそういうものです。まちをつくらうとするのではなく、個々の環境をいかに気持ちよくするか、それを個々に追求しさえすれば、その連鎖反応がまちの環境を創造するのです。

みどりのチカラとそれが及ぼす道理の話、おわかりいただけましたか。興味をお持ちいただければ嬉しいです。

昨年春に「不動産の価値はコミュニティで決まる」(学芸出版社)という本を出しました(写真9)。ここに書かれたことに興味をお持ちいただけた方は、ご一読いただければ幸いです。



写真8 個々の「快」の連鎖が街並みをつくる



写真9 不動産の価値はコミュニティで決まる